

長岡税務署管内税務団体連絡協議会会長賞 優秀

日本は豊かな国であるか

新潟県立長岡高等学校

二年 土田 康生

『日本は豊かな国であるか』先日、英語の討論の授業にて、このような議題が出されました。「日本は豊かな国である」という立場で討論に参加しましたが、そこに明確な根拠はありませんでした。ただ漠然と日本は豊かであるに違いないと考えていた私は、私とは対立の立場で討論に参加していた友達の「税金が高く、何か物を買うにもためらいを覚えてしまう。そのような気持ちが出てしまう時点で、私たち国民の心が豊かであるとは言えないのではないか。」という発言を聞き、反論を述べることができませんでした。

税金は、私たちの身の周りのさまざまな所で発生します。その最たる例が消費税です。消費税とは、ほとんど全ての物やサービスにつき、買った時、サービスを受ける時にかかる税金です。普段、私が通学で利用する電車やバスに乗る際に支払うお金も消費税に含まれます。他にも、所得税や住民税、法人税などがあり、全てを納めると大きな金額になります。しかし、世界的に見ると日本の税金は比較的安く、国民の負担は小さくなっています。ただ、日常生活を送っていく中で、税金が高く感じてしまう瞬間がどうしてもあるはずですが、私たちは税金についてどのように考える必要があるのでしょうか。

私は、税金の利用先を知ることが必要だと考えます。税金を納めるという行為は、一見すると、私たちにメリットがないように思えます。けれども、実際には、年金、介護、医療費、子育てなど国民生活の手助けになることに多く使われています。この事実を正しく理解しているかどうかで、税金に対する考え方や感じ方が変わってくると思います。例えば「消費税税率1%の上下で約二・六兆円の税収が増減する」という事実を聞いて、税金が私たち国民生活のために使われていることを知っていれば、お金を失われてしまうという消滅感よりも、さらに生活が豊かになる充実感が得られるはずです。

税金は、国民を欺いたり、騙し取ったりするような意図があつて設けられたものではないと決まっています。そこには、国民が社会の一員として暮らしていくための会費として納められる税金があり、国が国民の生活をより安全に、より豊かに、より幸せにしようと思われ税金があります。税金とは、国と国民との信頼の証でもあるのです。

もしも一度『日本は豊かな国であるか』と問われたら、私は迷いなく「日本は豊かな国である」と答えます。私の思う「豊かさ」とは、国や街の治安や子育て環境の良さはもちろん、国との信頼の証を携えた国民の心の豊かさをも含むと思います。